

Q42

切らずに治せる？
抜かずに治せる？
口の中の内視鏡手術とは？

歯・顎・口腔外科 助教
なかい ふみ
中井 史

Q 口の中の手術にも
内視鏡を使うの？

A 歯を抜いたり、できものを切除したり、口内の手術には多くの種類があります。しかし、口の中は狭いため、見えにくい部分がたくさんあります。口の中の手術でも内視鏡の進化により、見えにくかった顎の骨の中や、唾の通り道の細かい管の中などをはっきりと大きな画面で見ることができるようになりました。今まで拔牙しか方法がなかったのに抜かずにすんだり、切開しなればできなかった手術が切らずにすむ可能性があります。

Q 歯を抜かずにすむ方法があるのですか？

A 歯周病やむし歯、歯が折れたなど、どうしても歯を抜かなければいけない理由はたくさんあります。歯を抜く原因の1つに、根っこの先に膿の袋ができてしまったという場合があります。これは、むし歯が歯の神経まで進行したのに放っておいたり、神経を治療した歯でも、むし歯の細菌

が根っこの先まで入り込むことで起こります。こうなった歯はかぶせ物を壊して根っこの中を掃除するのですが、治らなければ膿の袋ごと歯を抜いてしまわなければいけません。しかし、根っこの先の汚れた部分を切ってきれいな詰め物をする「歯根端切除術」という手術で、きれいなかぶせ物を壊さずに、歯も抜かずにすむ可能性があります。

この「歯根端切除術」とは歯ぐきを切ってめくり、膿の袋を取り除き、汚れた根っこの先を切って掃除し、きれいな詰め物をする手術です（図、写真1）。歯の根っこは顎の骨の中の直接見えない場所にあるため、今までは奥歯は手術ができませんでした。そこに内視鏡が登場したことにより、今までは諦めていた直接見えない奥歯の根っこを治すことができる

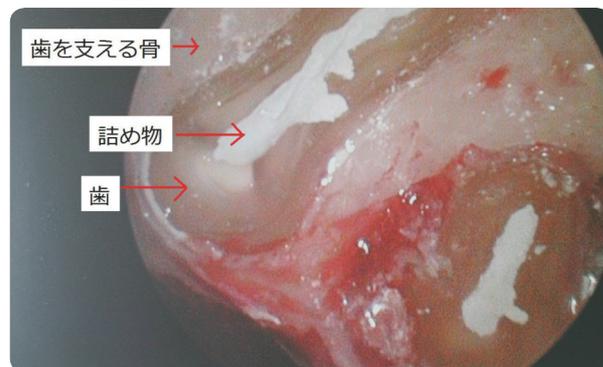


写真1 歯根端切除術／内視鏡で根っこの先に詰め物が入っているのが確認できます

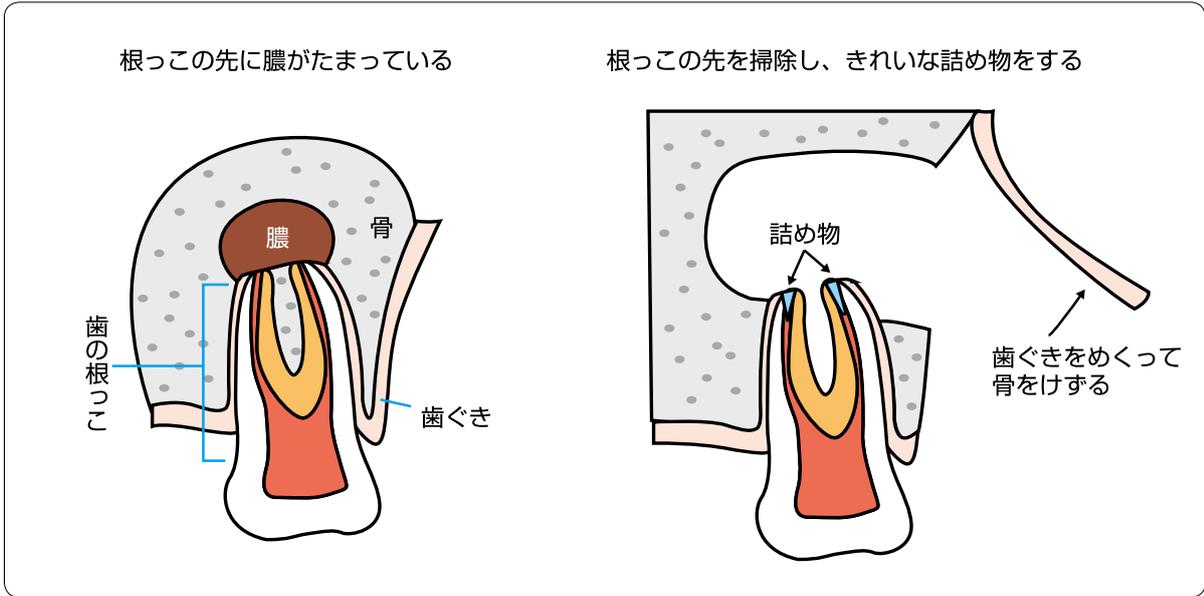


図 歯根端切除術

ようになりました。前歯も内視鏡を使うことで、直接見るよりずっと正確に手術ができます。

Q 唾を作る所に石があります。切らずに取れませんか？

A ^{だえきせん}唾液腺という唾を作る場所や、その通り道^{だせき}の管にできてしまった石を「唾石」と言います。唾石があると食事中などに腫れや痛みが生じる場合があります。取るためには口の中や顎の下などを切らなければいけませんでしたが、最新のとても細い専用の内視鏡（写真2）を使うことで、唾の通り道にカメラと細い器具を一緒に入れて唾石

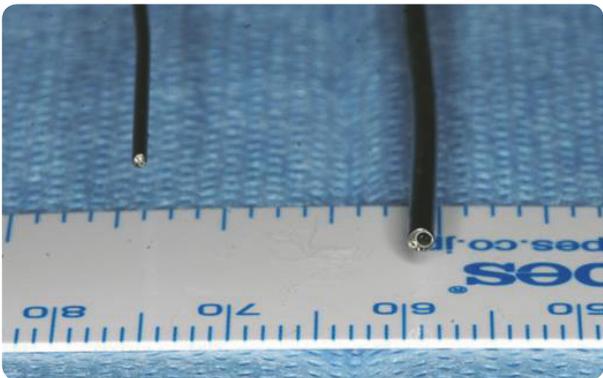


写真2 唾石専用の内視鏡／左：唾の通り道を観察する内視鏡。右：唾石をつかむ器具が中を通る内視鏡

をつかんで取り出すことができるようになりました（写真3）。この方法は全国的にも限られた施設で行われていません。唾石の位置がとても深かったり大き過ぎる場合は、内視鏡を駆使しても取れないこともあります。切らずに取れるかどうか調べてみることをお勧めします。

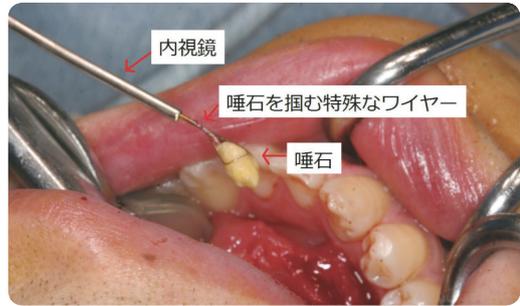


写真3 内視鏡下唾石摘出／内視鏡の中を通した器具がつかんで取り出してきた唾石です

一言メモ

1. 当院では口の中の手術に内視鏡を使用し、低侵襲で安全性の高い手術を行っています。
2. 膿の袋ができて抜かなければいけない歯も、内視鏡を用いた「歯根端切除術」でできるだけ抜かずに治療しています。
3. 唾の通り道にできた「唾石」も、内視鏡を使って切らずに取る治療を行っています。

Q43

がんの治療と口の中の環境は関係ありますか？



歯・顎・口腔外科 准教授
おおばやし ゆみこ
大林 由美子

Q がんの治療で精いっぱいです。口の中のことまで考えられないんですけど……

A どんながん治療も口の中とは大いに関係があります。全身麻酔での手術中は、口から気管に人工呼吸のチューブを挿入することになります。口内の清掃が不十分だと気管の奥に口の細菌が押し込まれ、術後の肺炎の原因になることがあります（図1）。また口内の細菌は傷口の感染を引き

起こすこともあります。抗がん剤治療では口内炎、味覚異常、口の乾燥、歯ぐきの腫れや痛み、カビやウイルスによる感染などが起こることがあります。使用する薬剤によっては、顎の骨が壊死することもあります。

口内炎は40～100%の患者さんが経験する口のトラブルです。ひどい口内炎で食べられなくなったり、痛みでしゃべることが難しくなることもあります。また口内炎の傷口から細菌が体の中に入り、熱が出て全身状態を悪くすることがあります（写真1、図2）。放射線治療では口内炎、口の渇き、むし歯の増加などがあります。従って、口の中はがん治療を進める上で重要な場所なのです。

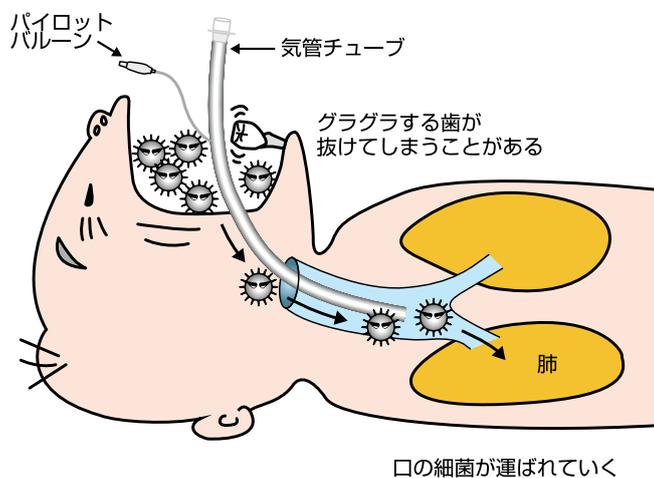
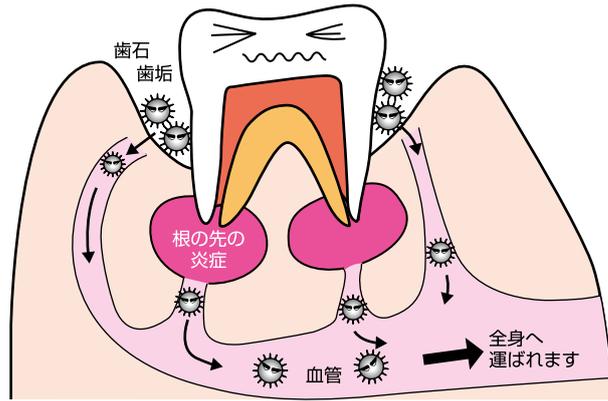


図1 術後肺炎の原因



写真1 口内炎



ふだんは口腔の細菌をやっつけることができますが、がん治療で免疫が低下すると、やっつけることができなくなります

図2 口腔の細菌が全身へ

Q がんの治療の際には歯科を受診した方がいいですか？

A 口の中は細菌がとても多い場所です。口の中は細菌にとって温度、湿度、栄養が十分で居心地がいい所なのでどんどん増殖します。口の中の細菌によるトラブルを予防するためには細菌の数を減らすことが重要です。細菌の数を減らすには正しい^{こうくう}口腔清掃が最も効果があります。自己流の歯磨きでは磨いている気がしているだけで細菌はあまり減っていないことがよくあります。口の状態は一人ひとり異なるので、歯科で自分に合った歯磨きやケアの方法の指導を受けることが、がん治療を進める上で大事なことです。

また歯科で手術前に歯石や細菌の塊（プラーク）を除去することで術後の肺炎や傷口の感染を予防できます。抗がん剤や放射線治療で起こる口内炎などは毎日の口腔清掃に加え、歯科で専門的な清掃を行うことも、口のトラブルを軽くする手段です。

Q うがいをしているので歯磨きしなくても大丈夫ですか？

A うがいでも少し細菌数を減らすことができますが、うがいの前に、歯がある場合に

は歯磨きをしてプラークを取り除くことが最も重要です。うがいでプラークは取り除くことができません。歯ブラシは小指の先ほどの小さくて柔らかいナイロン製のものを使ってください（写真2）。義歯にも無数の細菌がくっついていますので、少なくとも1日1回は流水下で清掃してください。舌も細菌が多い場所です。1日1回程度、専用のブラシで清掃してください。口のトラブルがある場合には遠慮なく歯科に尋ねてください。トラブルの状態により多様な対処法があります。

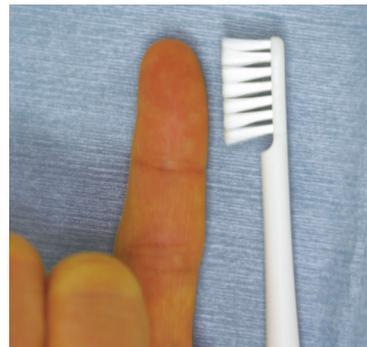


写真2 歯ブラシは小さめを選んでください

一言メモ

がん治療中に口のトラブルで食事ができなくなると病気と闘う気持ちが弱くなり、体力が低下しがん治療を続けることが難しくなったりします。口を清潔にしておくことは、がん治療を滞りなく進める上でとても重要です。